

**紫溟吟社集 : 俳句 : 文苑**

著者	千草, 李王, 千臭, 葬堂, 岸三, 渭南, 瓢郎, 子明, 敗荷, 秋皎, 珀雲, 卜道, ?耳, 錐栗, 戦車
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 2 2
ページ	5 8 - 6 0
発行年	1907-10-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6066">http://hdl.handle.net/2298/6066</a>

淀の流れ東江口の夕雨に法師が歌も浮べけん波

五十八

白

月

君戀ふと白日の言葉にあしかねつせめて語らん夢とよそひて  
戀しては紅蓮と燃ゆるわれなるを無心の雲に似よこの給ふか  
色さむう石もの云はず秋風のさらすがまゝに何を悟れる  
美くと月に立つ影見てしよりいつとしもあき胸をざるかな  
讀みてよと云ひて送りし文あれどよみぬときとて宵々の夢  
今宵も月光ほそく胸に入り古りに戀のまた甦みがへる  
野の花の葢の粉、指にうつること心の底に君が面影

紫溟唾社集

- 吳女彈じ越女謠ふや月の船 千草 閉居の戸柚味噌を焼けば柏散る 全
- 霧罩めて欸乃くらゝ鹿鳥灘 全 水郷や穂をとぶ草に秋暑し 全
- 聖堂の壁画に漏るや秋の雨 全 木の實落ちて輪をなす水や奥の院 全
- を濁りそと杯に汲む清水かゝ 全 木の實落ちて暮れ行く山や駄馬の行 全
- 夕日強く裸を射るや鯛引 李王 先達の杖折る音や秋の山 全
- 秋暑き古帆の中や鼠の子 全 目の下に碁布の小村や秋の山 全
- 鼠取る藥捨てけり黄鶏頭 全 寐ねて讀む難波戦記や夜半の秋 全
- 筆投けて酒あき庵の夜長かゝ 全 薺堂

沙魚舟や風夕風きて釣惜む 全  
 相促し歸支度や沙魚の人 全  
 虫食みし蓼太集よむ夜長哉 全  
 貝吹いて村の御講や秋の村 岸三  
 漁火に五位鳴く岬を巡り鳥 全  
 山晴の空に紫苑の高さ哉 全  
 葉鶏頭石垣高く割木干す 全  
 迷ひありく放れ犢や蕎麥の花 全  
 秋の蚊をはたく隠元の拂子哉 渭南  
 開山の節儉訓や抽味噌焼く 全  
 青物の中に香爐や星祭り 全  
 徳利に芒さしけり酒肆の椽 全  
 くらがりの野に立つ我や虫の聲 全  
 傍に火吹達磨や抽味噌焼く 瓢郎  
 鶏頭や馬書いて歌仙燈籠干す 全  
 乳を取る山羊小屋並び葉鶏頭 全  
 團栗や土取りく跡の水たまり 全  
 満潮の出島の外や鰯引く 全

紫溟吟社例會々報

九月十九日第一回例會を九品寺に開く、作者十七人、選者十六人、岸三、二十五点、瓢郎二十三点、子明薺堂二十一点、李王十六点、敗荷渭南十三点、千草十点、千臭九点以下畧。入選の句より

映を出る馬の高荷や柿の畚 岸三  
 朝毎に眠ふ驛や柿の秋 全  
 豆東に乗せし篩やきりくす 瓢郎  
 初汐や籠ながら魚を洗河 全  
 阿迦棚に灯せば鳴かぬ蝉かな 子明  
 山頂や霧吹杉の雨さなり 全  
 蕤編むそのつれんや鳴子引く 薺堂  
 水樓に月待つ宵の秋霧かな 全  
 ぬすみ飲む酒冷たしやいことなく 李王  
 山越の漁人に晴るゝ朝の霧 全  
 青柿や荒楓なん風に雲ほやき 敗荷  
 五反田に五つの繩の鳴子哉 全  
 庵の灯の赤きに迫る夜霧哉 渭南  
 蟋蟀砧の臺に飛びにけり 全  
 溢柿に小猿の怒る可笑しさよ 千草  
 初汐や峭這ひ上る岩の角 全  
 麥刈れし畑の鳴子や赤蜻蛉 千臭

十月 日第二回例會(余根屋)運座一回宿題「稍寒三句」作者  
 選者八人、岸三十四点、李王十三点、瓢郎十一点、敗荷八点以  
 下畧。入選の句より

柿が研ぐ砥石の水に木の實落つ 岸 三  
 遠く見る踊や浦の七篠 全  
 斧打てば大樹の木の實ほろ落る 李 王  
 蓑虫に十日雨なき楢かな 全  
 立板を滑る木の葉や稍寒し 瓢 郎  
 堰の根に流れよりたる木の實哉 全  
 石臼に氷黒すみて木の實落つ 敗 荷  
 稍寒や燈にうつる人の顔 全

紫溟吟社東京支會

出入 慮うるさき袖の蝨哉 秋 皎  
 梭音は丘の一家や蝨とり 珀 雲  
 芋畑を出水の芥肥しけり 同 人  
 芋の葉にかゝれて妹の浮名哉 卜 道  
 天下晴るゝ山上の菴に芋を堀る 緑 耳  
 山の水甘し芋の子眞白さよ 同 人

鍋蓋や芋の子一つ浮いてのる 錐 栗  
 一つかみ蝨煎る火にくれ迫る 同 人  
 蝨どぶや舟曳く人に稻深く 戰 車  
 軒に積む稻や障子に蝨どぶ 同 人  
 秋 雜

石ころは小さき陰ある月夜哉 錐 栗  
 一繩は芒の中に鳴子哉 全  
 倒懸の苦を蓑虫の鳴く夜哉 全  
 稻を焼く軍に鳴子あらしけり 全  
 夜半に鳴くは天井に棲む蓑虫か 戰 車  
 椎の實や漁村に古りし妙見寺 全  
 芋畑に壁落つるまゝの土藏哉 全  
 團栗に句種拾ふや鳴く鳥 全  
 一齊に嫁やれと囃す踊哉 全